

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	《ふるさとと文学 2019～立原道造の浅間山麓》
事業主体 (連絡先)	ふるさとと文学 2019 立原道造の浅間山麓実行委員会 (事務局：軽井沢町教育委員会生涯学習課内 0267-45-8695)
事業区分	(3) 教育及び文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,977,038 円 (うち支援金： 2,977,000 円)

事業内容

1 《ふるさとと文学 2019 立原道造と浅間山麓》の開催

新作映像・語り・演奏、朗読、座談会、詩をイメージにした演奏会など、ビジュアルで全く新しい文学ライブイベントを実施。

とき：令和元年10月27日(日)・会場 軽井沢大賀ホール

2 《ふるさとと文学 2019 立原道造と浅間山麓》映像資料の作成・配布

会場に来られなかった方や地域の子どもたちにも浅間山麓と立原道造並びに文学とのつながりから、地域の魅力の再発見の一助として貰うため、本事業の映像記録及び新作映像を再編集したDVDを、郷土資料や教材として地域の図書館・博物館・学校等に配布した。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①最終申込総数は会場の定員 800 人を超える 894 人、内 781 人を事前申込受付、お断りした方や締め切り後の問い合わせには、会場外に3か所設置したパブリックビューイングを紹介した。

高速道路などに一部通行止めがあり、新幹線のダイヤが間引きとなり、しなの鉄道が一部不通となる中、会場に 702 人、パブリックビューイングに約 86 人が参加し、立原と浅間山麓の関関係に思いをいたし、地域の魅力の再発見につながった。

②信濃毎日新聞にイベントの案内や報告、出演者のエッセイ等を計 5 回、20 段の紙面を費やして取り上げて貰うことにより、会場に来られなかった方にも、幅広く立原の業績や地元との関係を知ってもらうことができた。

朝日新聞、軽井沢新聞、FM 軽井沢等、複数のメディアに取り上げてもらうことにより、信毎の読者以外にも、立原を思い地元との関係を意識してもらうことができた。

③より多くの人に立原と地域との関わりを通して地域の魅力を伝えてもらう一助とするため、この事業で作成した映像資料(DVD)を地域の図書館や学校、教育委員会、文化施設に寄付した。



【第1部 朗読ライブ】



【第3部 座談】



【第4部 コンサート】

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今回の事業が一つのきっかけとなり、軽井沢高原文庫に立原道造記念会の宮本信子さんから、立原関係の生原稿、手紙類などの資料が相当量寄贈された。

イベントと軌を一にして開催された「四季派の詩人たち～立原道造を中心に～」展はその成果の一つ。

軽井沢高原文庫は今後、全国レベルでの立原道造顕彰についての中心となる事が期待されており、今後今回の寄贈資料を基にした展示も行っていく。

また堀辰雄文学記念館や地域の図書館、学校などと連携したシンポジウムなどを計画、文学や地域との関わりなどについて広く色々な方に知っていただく機会となるよう、この機運を活かした各種企画を計画して行く。

【目標・ねらい】

- ① イベント会場での波及
- ② メディア等を通じた波及
- ③ 地域の公的施設での波及

※自己評価【A】

【理由】堀辰雄などと比べても夭折した立原道造は地元で忘れられがちだったが、今回の企画を通じて幅広い人々に、その業績や地域とのかかわりを思い出してもらうことができた。イベントへの申し込みは、締め切り前に満杯となり、直前まで何とか参加させてほしいという人が相次いだ。会場でとったアンケートでも、8割以上の人が、催しを積極的に評価していた。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある